

群馬県森林・林業基本計画の策定方針

現状と課題

林業の構造的な問題

- 1 高コスト体質（造林、保育、素材生産、製材加工）
- 2 産業として自立する仕組みの欠如
- 3 補助金に依存する構造
- 4 現状維持では産業としてじり貧

これまでの群馬県の林業施策

- 1 森林の公益的機能を重視
 - (1)森林の育成（CO2吸収、水源涵養等の維持・増進）
 - (2)治山事業（防災機能の強化）
- 2 公共事業費の投入による山村振興
 - (1)治山・林道、森林造成

近県との比較

- 1 施策の違い
 - (1)育成型林業から素材生産型林業への転換の遅れ
 - (2)県内の製材加工基盤整備の遅れ
- 2 影響
 - (1)素材生産量、林業産出額の伸び率が低い
 - (2)製材品生産量は横ばい、素材の県内消費が停滞し、県外へ移出

策定方針

大胆な構造改革により
産業としての自立を実現

方向性

- 1 産業構造改革による高コスト体質からの脱却
- 2 公益的機能の維持・増進に加え、充実した森林資源の循環利用を重視
- 3 森林資源を循環利用する施策への転換により、林業産出額を増やし、山林所得の増加につなげる

主な施策

- 1 林業の高コスト体質の改善
 - (1)地理的条件等を踏まえた低コスト林業システムの導入
 - (2)デジタル化・自動化の推進など
- 2 製材加工体制の再編
 - (1)大型製材工場等の誘致（大手ハウスメーカーと連携）
 - (2)既存製材工場の特性を活かした高付加価値製品の加工体制の強化など

次期群馬県森林・林業基本計画（仮称）（骨子案）

1 計画策定の趣旨

- (1) 「自立した林業・木材産業」によって森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現に向けた取組を推進する。
- (2) 県民共有の大切な財産であり利根川水系の上流を支える群馬の森林の価値を、新たな視点で見つめ直し、充実した森林資源を循環利用することにより、持続可能な森林経営を確立する。

2 計画の位置付け

- (1) 新・総合計画（ビジョン・基本計画）を、森林・林業分野から推進するものであり、森林・林業施策にかかる最上位計画。
- (2) 将来の森林・林業の姿を明確にするとともに、林業・木材産業の自立に向けた基盤を確立するため、今後10年間に実施すべき取組の基本的方針と具体的施策を示すもの。

3 計画期間

2021年度から2030年度（10年間）

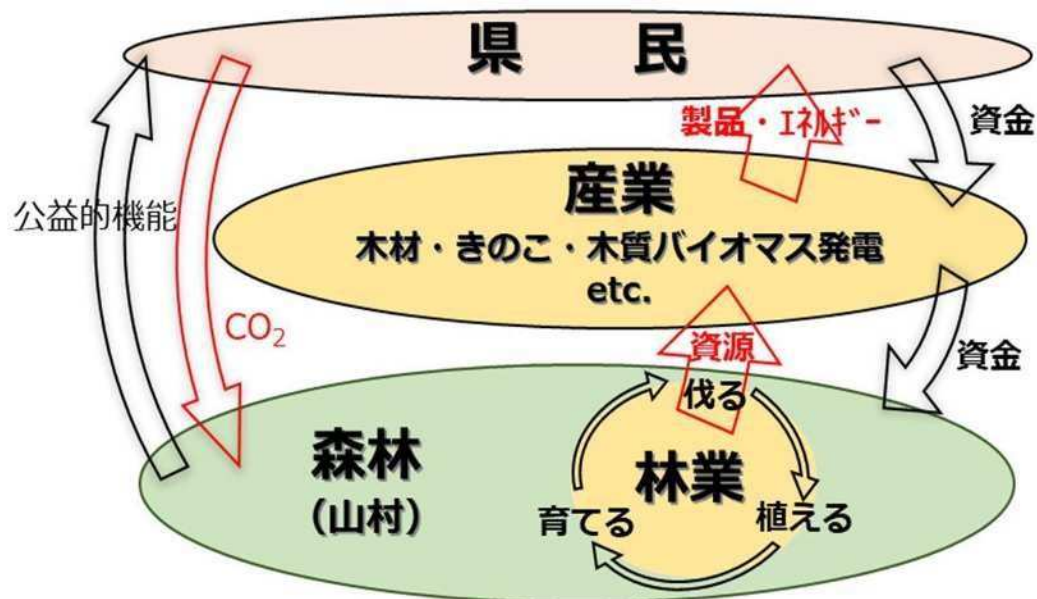
4 計画の構成

第1編 基本的事項	基本的事項（策定趣旨・位置付け・計画期間）
第2編 基本構想	第1章 ぐんまの森林・林業をとりまく情勢の変化 第2章 ぐんまの森林・林業の姿 第3章 将来ビジョン2040 第4章 計画のメインテーマと基本方針（施策体系）
第3編 基本計画	第1章 基本方針に基づく施策・事業展開及び計画指標 第2章 進行管理（計画推進体制、管理・公表）

5 群馬県における森林・林業の将来ビジョン2040

県産材による自立分散型社会の実現

～資源と資金が林業で循環する社会～



県民一人一人が、森林資源や森林の公益的機能の恩恵を享受していることを実感し、誇れる財産であることを感じています

林業・木材・きのこ産業等は、高い生産性を実現し、自立した持続可能な産業として森林の価値を最大限に高め、地域に雇用と資金循環を生み出しています。従事者はやりがいと責任を持ち、地域を支えています

それぞれの森林の特性に応じて、森林から生み出される資源が「多様」かつ「持続的」に利用され、災害防止などの公益的機能が十分に発揮されています

6 群馬県森林・林業基本計画のメインテーマと基本方針

メインテーマ：林業・木材産業の自立（計画期間における目標）

基本方針1

林業の競争力強化

基本方針2

森林の新たな価値の創出

基本方針3

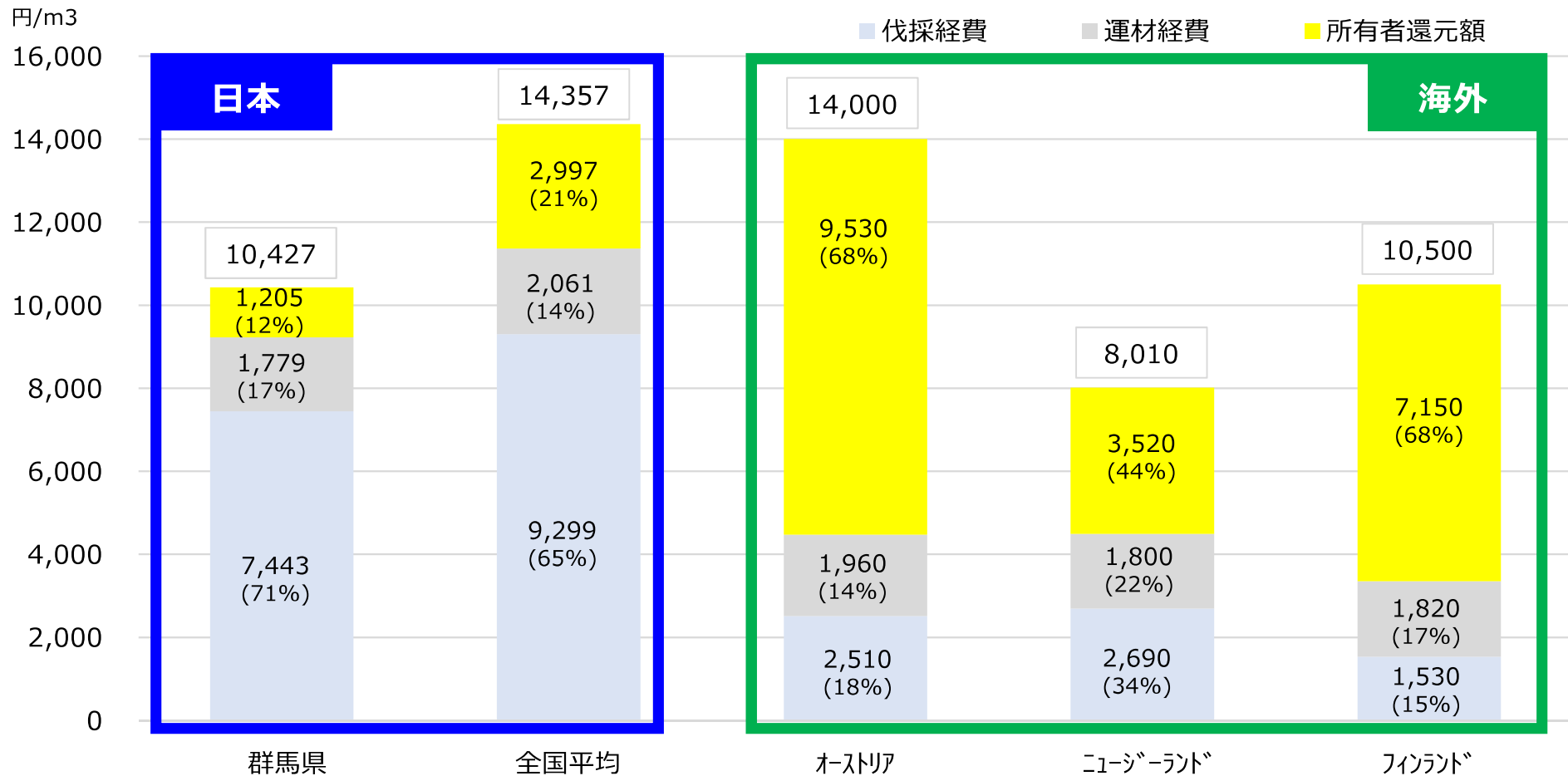
森林の強靱化

1 - (1) 群馬県、全国平均及び海外の素材生産経費比較

- ① 群馬県と全国平均とでは素材生産経費に4,000円/m³程の差があるが、構成割合に大きな差はない。
- ② 日本と海外とでは、構成割合に大きな差がある。
- ③ 日本の伐採経費は海外と比べて非常に大きい。



構造的な改革が必要



「素材生産事例調」(林野庁企画課)のスギ間伐の5か年平均値(平成26年次から平成30年次)及び「わが国林業、木材産業の今後の可能性」(株式会社日本政策投資銀行)から

1 - (2) 国産材・外材の製材品価格比較

- ①国産材（乾燥材・集成材）は外材（集成材）に比べ
4,000円～8,000/m³安い
- ②国産材は、製材品価格に占める「加工費」の割合が高い
- ③大手住宅メーカー等は品質・供給の安定性から外材を多く選択



構造的な
改革が必要



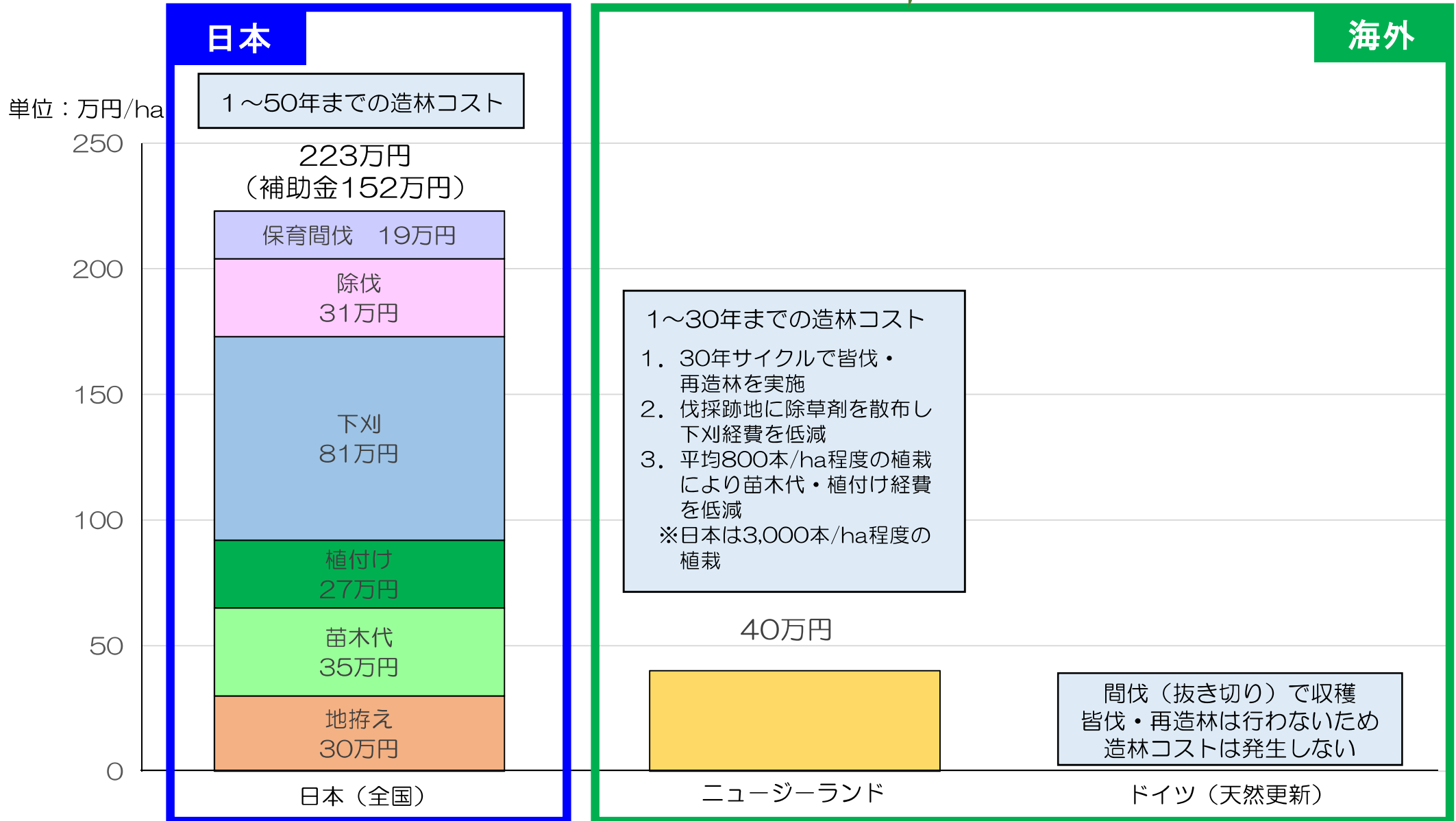
注；価格構成割合は、林野庁業務資料及び県産材加工協同組合の決算書による。
 *建設物価 9月号（2016～2020）掲載価格の5カ年平均。規格は105×105×3000の管柱。
 *都市内現場持ち込み価格、取引数量5～15m³、プレカット加工賃は含まず。
 *集成材管柱は1本あたり価格から1m³あたりに換算（1m³≒30本）。
 **林野庁木材価格統計調査（令和2年8月第1報）から令和2年1月～8月の工場出荷価格の平均に運賃・利益相当（6%）を加算して算出した推定価格。

1 - (3) 日本・海外の造林コストの比較

① 日本の造林コストは海外に比べ高い（ニュージーランドの5倍強）



構造的な
改革が必要



※日本：林野庁資料を参考に作成（スギ3,000本/ha植栽、下刈5回、除伐2回、保育間伐1回、野生鳥獣対策費は含まない）、補助金は補助率68%で算出
 ニュージーランド：持続可能な森林経営研究会第7回セミナー（2009年1月）資料。1N\$ = 89円で計算

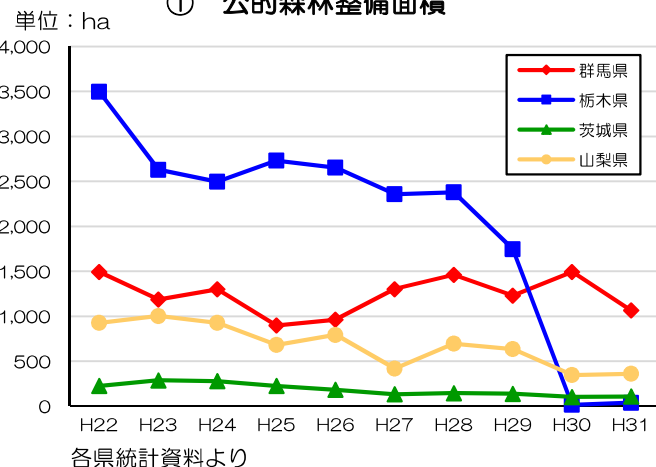
本県と近隣県における林業・木材産業の推移

公的森林整備

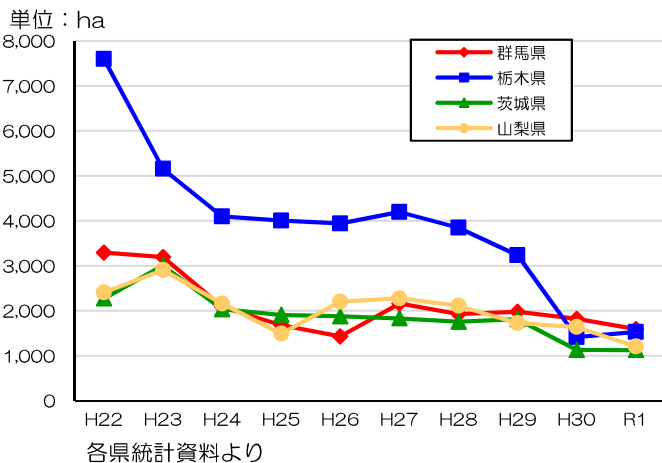
【近隣県との比較】

1. 公的森林整備面積は**群馬県は増加傾向だが**、他県は減少傾向。特に栃木県は、H30以降未実施（経営林支援へ用途変更）。
2. 間伐等森林整備面積（公的森林整備・造林補助金）は**各県とも減少傾向**で、特に栃木県が大きく減少（切捨間伐から利用間伐へシフト）。

① 公的森林整備面積



② 間伐等森林整備面積

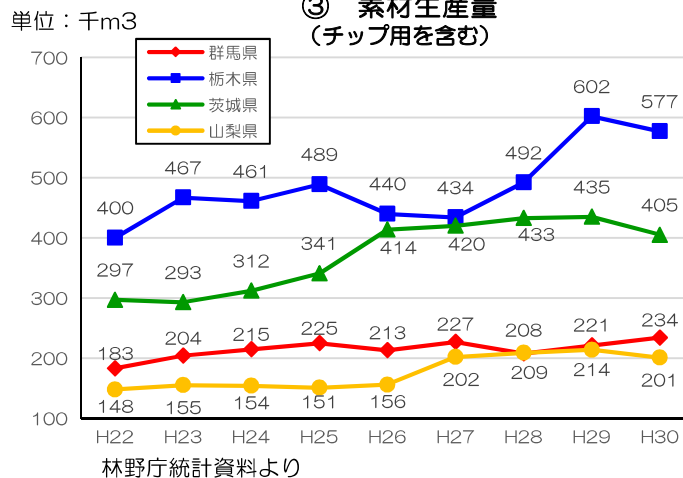


林業（川上）

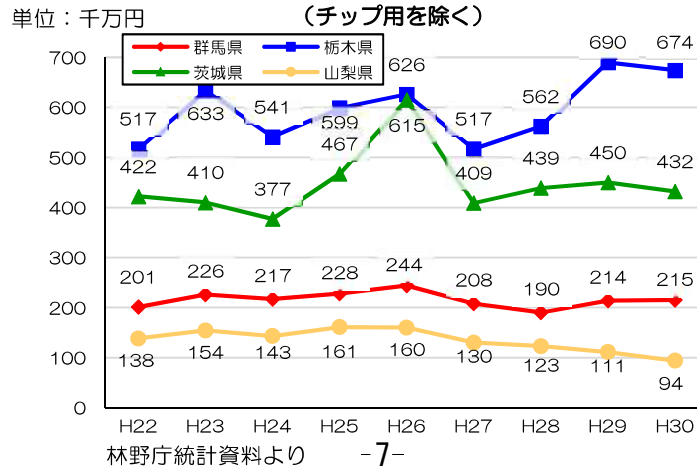
【近隣県との比較】

1. 素材生産量は、各県とも増加傾向だが、**群馬県の伸びは最も低い**。
 2. 林業産出額（素材）は、栃木県は伸びているが、**群馬県を含め他県は横ばい又は減少**。
- ※③素材生産量については、林野庁統計資料から作成。本県独自調査とは調査方法が異なる。

③ 素材生産量 （チップ用を含む）



④ 林業産出額（素材） （チップ用を除く）

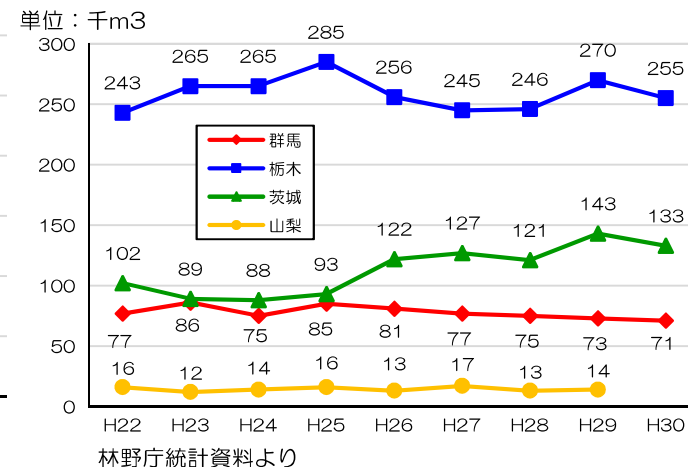


加工・需要（川中・川下）

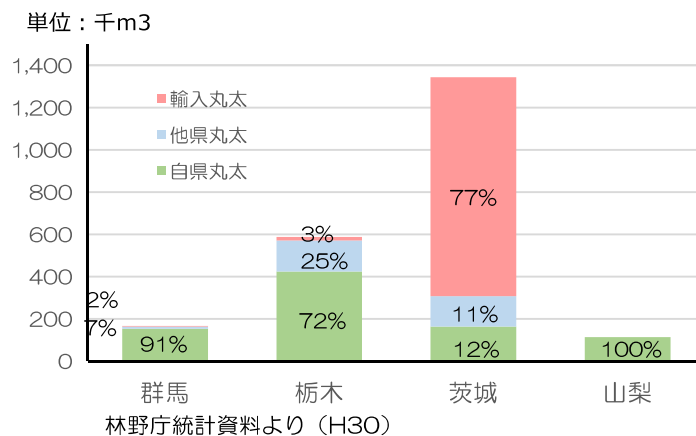
【近隣県との比較】

1. 国産材製品出荷量は、県内に大型工場がある栃木県、茨城県は高い値で推移又は増加傾向。**大型製材工場のない群馬県、山梨県は減少傾向**。
2. **群馬県で生産された素材のうち県内消費分以外**は他県へ移出。

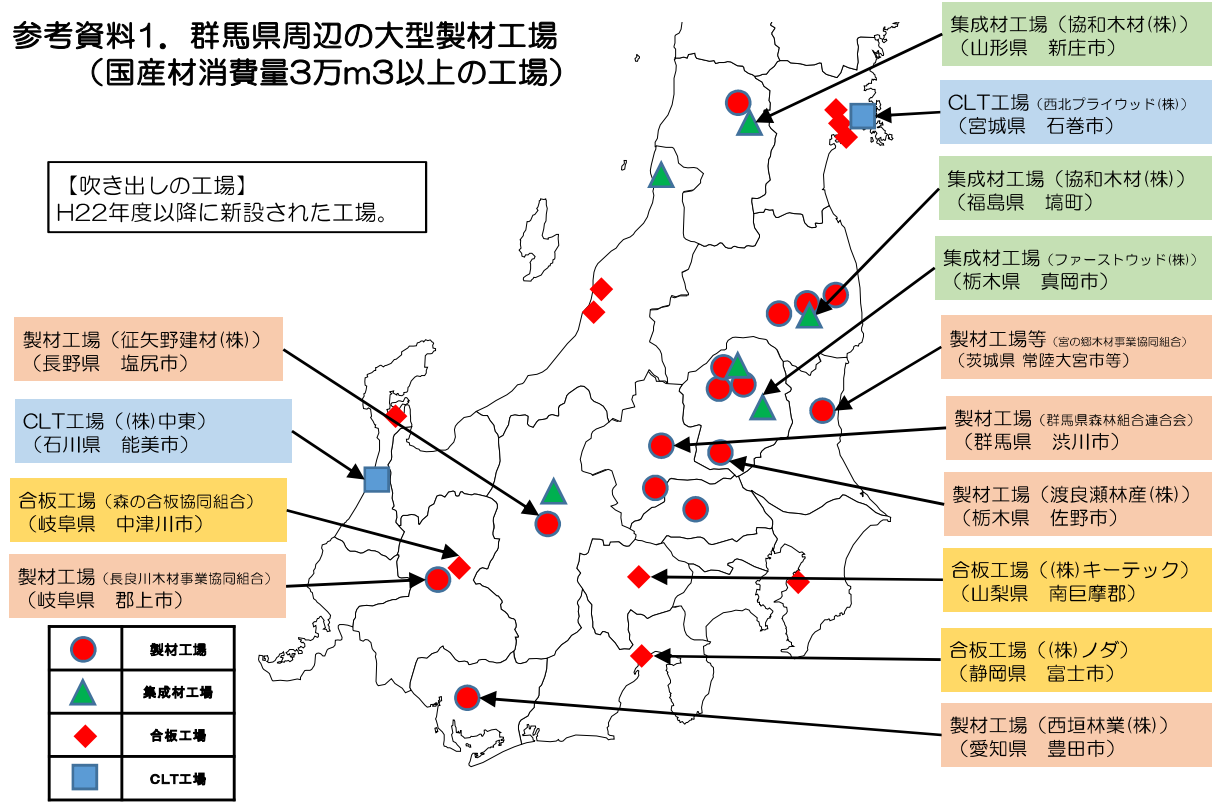
⑤ 製材工場における国産材製品出荷量



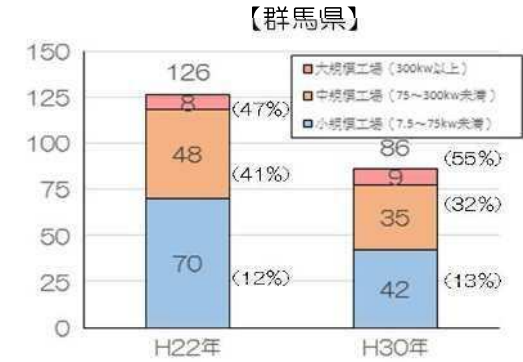
⑥ 製材工場における国産丸太・輸入丸太の消費量



参考資料1. 群馬県周辺の大型製材工場 (国産材消費量3万m³以上の工場)



参考資料2 製材工場の出力別工場数及びその木材入荷割合



※ ○ は木材入荷割合
※ 農林水産省「木材需給報告書」より

参考資料3 木造軸組住宅の部材別木材使用割合

